

高祖保作品年表（一）

外村 彰

高祖保（一九一〇～一九四五）は、昭和戦前期に高雅な抒情詩を書いた才質豊かな詩人である。詩誌『椎の木』『苑』『文藝汎論』等で活躍し、代表的詩集には『希臘十字』（椎の木社、昭八・八）、『雪』（文藝汎論社、昭十七・五）がある。それらの独自の個性は詩壇から高い評価を得たが、三十四歳という若さで現在のミヤンマーにおいて戦病死した。

高祖保の詩人としての活動については、現代詩文庫版『高祖保詩集』（思潮社、昭六十三・十二）、佐々木靖章「高祖保著作年譜稿」（『文献探索』2006）『文献探索研究会』平十八・十一）によって主要な業績を知ることが出来る。しかし戦前戦中の同人詩誌の実見が難しいこともあって、文献調査については未知の部分が多く残され、高祖の文学者としての正当な評価も未だに定まっていないのが実状である。

ここでは、現在までに集め得た高祖保の諸文献を年次別の作品表とし、全集編纂（刊行は龜鳴屋、生誕百年にあたる二〇一〇年を予定）を期して掲載することにした。

構成は「Ⅰ 書目編」「Ⅱ 誌紙編」に分けた。以下に凡例を記す。

「Ⅰ 書目編」は「著書」「編著」「単行本一部所収」に分け、発行所、発行年月日を記した。「編著」には実質的に高祖保が編集した書目も「参考」として記した。「単行本一部所収」には冒頭に高祖保の作品の「題目」、また末尾に掲載頁数を記した。

「Ⅱ 誌紙編」の表記は「Ⅰ 書目編」に準じ、発表年月日順に列挙した。順に「題目」巻号数、発行年月日 頁数を記した（再録も含む）。なお巻号数の「第」は略記し、「題目」内の「」については『』の表記で統一した。発行所等は誌名や巻号数の下の（ ）内に適宜記した。また「発表誌紙未詳」、「破後発行の誌紙」も付記しておいた。

作品表のうち、詩はそれぞれの末尾に「（詩）」と注記し、複数ある場合は算用数字でその数を記した。短歌・俳句は全ての数を（ ）内に注記してある。散文は評論・エッセイの

場合は注せず、書信やアンケート（「アン」と略記）のみを記した。また署名で「高祖保」以外のもの、そのほか必要に応じて（ ）内に注記した場合もある。

なお詩人のご長男である宮部修氏が保存しておられたスクラップ頁のみ所見で、掲載誌未見の資料には「§」を、現在まで未見の文献については「+」を、それぞれ末尾に付した。

資料の収集にあたっては様々な方々や機関からの協力をいただいた。以下に記しておきたい。

個人的にお世話になった方々（五十音順）——阿部保彦、荒島浩雅、市川源一、志賀英夫、征矢哲郎、武川龍雄、はなま裕大福、服部晋介、前田静秋、三浦節夫、山口正明、山本つほみ、六條比呂美、和田博文（敬称略）。

直接、調査でお世話になった諸機関（五十音順）——旭川市中央図書館、芦屋市立美術博物館富田碎花文庫、上野学園図書館、大阪市立中央図書館、大田区立馬込図書館城昌幸記念文庫、大本本部教学研究所・天恩郷資料室、岡山県立図書館、岡山大学図書館、柏崎市立図書館（ソフィアセンター）、吉備路文学館、慶應義塾大学三田メディアセンター、県立神奈川近代文学館、県立彦根東高等学校史料館、県立山梨文学館、國學院大学図書館、金光図書館、滋賀大学付属図書館、白鳥省吾記念館、東京文化会館音楽資料室、同志社大学人文科学研究所、東洋大学井上円了記念学術センター、長岡市立

中央図書館、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、俳句文学館、彦根市立図書館舟橋聖一文庫、佛教大学図書館、町田市民文学館ことばらんど、立命館大学総合情報センター、同学メディアライブラリー。皆様には衷心からの深謝の意を申し述べたい。

参考となった主な文献（発行年月順）を次に列挙しておく。

・慶應義塾 三田文学ライブラリー編『三田文学総目次』（講談社、昭五十一・七）

・藤本寿彦「月刊『苑』総目次」（『練習船』五号、昭五十八・四）

・浦西和彦・青山毅編「雑誌新聞総目次索引解題集覧」（谷沢永一・吉田熙生編『鑑賞 日本現代文学別巻 現代文学入門』角川書店、昭六十・五）

・佐久間保明編『「文章倶楽部」総目次・索引』不二出版、昭六十・六）

・三浦仁編『日本近代詩作品年表 昭和篇』（秋山書店、昭六十一・二）

・小田切進編『増補改訂 現代日本文芸総覧』上・下・補巻（明治文献資料刊行会、平四・十二）

・現代詩誌総覧編集委員会編『現代詩誌総覧』③④⑤⑥⑦（日外アソシエーツ、平八・三、九・七、十・一、十・七、十二）

・志賀英夫『戦前の詩誌・半世紀の年譜』（詩画工房、平十四・

一)

・外村彰『月曜』『春聯』ほか細目稿——井上多喜三郎発行誌総覧』（『大阪産業大学論集 人文科学編』一〇八号、平十四・十）

・西村将洋「神奈川近代文学館蔵 俳句雑誌『風流陣』総目次—『HAIKAI DU JAPON』の軌跡—」（『同志社国文学』五九号、平十五・十二）

・佐々木靖章「高祖保主宰『門』の目次と解題—北国ルート
の詩人たち（1）—」（『文献探索2005』文献探索研究会、平十八・五）

・和田博文監修『現代詩 1920—1944—モダニズム詩誌作品要覧—』（日外アソシエーツ、平十八・十）

・佐々木靖章「高祖保著作年譜稿」（『文献探索2006』文献探索研究会、平十八・十一）

これらのほか、宮部修氏の所持しておられた高祖保作品のスクラップ帳、また『短歌詩人』昭和十七年一月号から十九年三月号まで掲載されていた転載欄、備忘欄も参考となった。

I 書目編

著書

・『希臘十字』椎の木社、昭和八・八・二十五

・『詩集 禽のゐる五分間写生』月曜発行所、昭和十六・七・十五

・『雪 詩集』文藝汎論社、昭和十七・五・四

・『信濃游草』自筆詩集（井上多喜三郎に献呈）、昭和十七・九・二十六

・『夜のひきあけ 詩集』太陽出版社創立事務所 青木書店、昭和十九・七・五

・『高祖保詩集』岩谷書店、昭和二十二・十一・十

・『高祖保歌集稿』彦根市立図書館 西田集平私家版、昭和三十一年・十（孔版）

・『高祖保詩集』思潮社、昭和六十三・十二・二十（現代詩文庫 1033）

・『高祖保書簡集 井上多喜三郎宛』龜鳴屋、平成十九・一・二十

編著

・宮部保編『故宮部千太郎追悼文集』宮部久子私家版、昭和

十五・六・十二

- ・(参考) 八幡城太郎『相模野抄』青柳山房、昭和十八・四・十五

- ・(参考) 高村光太郎『をぢさんの詩』太陽出版社、昭和十八・十一・三

単行本一部所収

- ・紅葉会(細見惣一郎)編『歌集 松の花』天声社、昭和三・七・一 四、三六、五〇、六一、八九、一〇二、一一〇、一五三、二〇〇、二〇四、二〇七、二三一、二三五頁(短歌15)

- ・「暮れゆく一九二七年」東海詩人協会編『東海詩集 第三輯』東文堂書店、昭和三・七・十五 一五六〜一五七頁(詩)
- ・「蒼白き虚無ニヒルの一頁 —— 或は『荒唐無稽な祖先の遺書』」東海詩集 第三輯『東海詩人協会、同右 一五七〜一六〇頁(詩)

- ・「[ELEGY] 百田宗治編『詩抄』椎の木社、昭和八・三・十 八 五五〜五六頁(詩)

- ・「共和国」『詩抄』椎の木社、同右 五六〜五九頁(詩)
- ・「蘆の芽」天久卓夫『蘆の芽』発行所未詳、昭和八・六・日、頁未詳(詩) 十

- ・「すでに年が老けて」村上成実編『新日本詩鑑 第一輯』(詩報作品版)『詩報発行所、昭和十三・十二・十 九頁(詩)

- ・「豪宕なる貧齒類に寄す」福島公肇編『戦争詩集』大阪詩人倶楽部、昭和十四・二・二十五 五六〜五七頁(詩)

- ・「豪宕なる貧齒類に寄す」長田恒雄編『戦争詩集』昭森社、昭和十四・八・五 一二〜一四頁(詩)

- ・「戦場の風景」『戦争詩集』、同右 一一五〜一二六頁(詩)
- ・「薤露襟纂」宮部保編『故宮部千太郎追悼文集』私家版、昭和十五・六・十二 二五〇〜二七八頁(署名「宮部保」)

- ・「哀園賦」『故宮部千太郎追悼文集』私家版、同右 三三〇頁(短歌1)

- ・「秋風辞」『故宮部千太郎追悼文集』私家版、同右 三三一頁(短歌1)

- ・「病牀四十日」『故宮部千太郎追悼文集』私家版、同右 三四三〜三四四頁

- ・「宮部千太郎小伝」『故宮部千太郎追悼文集』私家版、同右 三七七〜三九六頁(無署名)

- ・「ことば」『故宮部千太郎追悼文集 葉』私家版、同右 頁数なし(一五頁 署名「編者」)

- ・「唾々子氏の句について」手代木唾々子『緑層』合歓発行所、昭和十六・六・十三 頁数なし(序文 一〜八頁)

- ・「弾丸 そのほか」中山省三郎編『國民詩 第一輯』第一書房、昭和十七・六・三十 六九〜七四頁(詩5「戡定」「弾丸」「雪」「山上放列」「箴言」)

- ・「旅の手帖 中央線・小海線・信越線——九月」中山省三

- 郎編『國民詩 第二輯』第一書房、昭和十八・三・二十
三〇五〜三一八頁（詩）
- ・「出發」阿部宙之介・村上成実編『新日本詩選 愛国の詩』
大和出版社、昭和十八・四・二十五 一二三〜一二五頁（詩）
- ・「神の留守（他二篇）」野田宇太郎編『詩撰集 いくさのには』
豊国社、昭和十八・八・十一〇九〜一二六頁（詩）3「神
の留守」「牛」「面」
- ・「わが長歌 七章」野長瀬正夫編『日本詩集 第二輯』淡
海堂出版、昭和十八・九・五 二四一頁
- ・「海宿に泊つ」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右 二
四二〜二四四頁（詩）
- ・「いまのうつつに」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右
二四五〜二四八頁（詩）
- ・「おもひ印度へとどぶ」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同
右 二四九〜二五二頁（詩）
- ・「寒雁」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右 二五三〜
二五六頁（詩）
- ・「冬夜」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右 二五七〜
二六〇頁（詩）
- ・「赫夜姫につきて」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右
二六一〜二六四頁（詩）
- ・「汽車につきて」『日本詩集 第二輯』淡海堂出版、同右
二六五〜二六八頁（詩）

- ・「夢」日本文学報国会編『辻詩集』八絃社杉山書店、昭和
十八・十・八 一三八〜一三九頁（詩）
- ・「天の磐戸ふたたび展く」山田岩三郎ほか編『近代名詩選集』
千歳書房、昭和十九・二・十 五七八〜五八三頁（詩）
- ・「独楽」『近代名詩選集』千歳書房、同右 五八四〜五八六
頁（詩）
- ・「独楽」竹中郁編『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、
昭和十九・二・二十 一五二〜一五五頁（詩）
- ・「春」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、同右 一五五
〜一五七頁（詩）
- ・「夜」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、同右 一五七
〜一五九頁（詩）
- ・「蓐收 田園に囁くもの」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝
文館、同右 一五九〜一六二頁（詩）
- ・「新領土」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、同右 一
六二〜一六四頁（詩）
- ・「掌」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、同右 一六四
〜一六八頁（詩）
- ・「夢に白鷄をみる」『現代詩 昭和十八年秋季版』輝文館、
同右 一六八〜一六九頁（詩）
- ・「鶯の来る庭での対話」眞田喜七『夜雨す』よはあめ 神奈川県詩文
学会、昭和十九・十・十五 二二八〜二三三頁（跋文）
- ・「今昔物語」日本文学報国会編『詩集 大東亞』河出書房、

- 昭和十九・十・二十 七三〜七四頁(詩)
- ・「等閑の箱」『湖のCahierから』「みづうみ」山下町の夜
 - ・「去年の雪いづこ」『年の徂徠』「家」『神』『日本現代詩大系第九卷・昭和期(二)』河出書房、昭和二十六・十・三一 一八三〜一八七頁
 - ・西田集平編『高祖保歌集稿』彦根図書館、奥付なし(昭和三十一年・十)〈平成八・三 私家版(榎谷昭三)として再刊〉
 - ・「希臘十字」『海燕と牛』「Lethe」『牧歌的』『湖のCahierから』「乖離」『孟春』「雪もよい」『呵呷の行者』「夢に白雞をみる」『路上偶成』「旅の手帖」『経過』『現代詩人全集第八卷 現代IV』角川文庫、昭和三十五・十二・十 二一一〜二二五頁
 - ・「蜜柑の笑」四家文子編『橋本国彦歌曲集1』全音楽譜出版社、昭和四十五・月日付なし 二二〇〜二二二頁(詩)
 - ・「詩集 雪」小川和佑編『埋没した青春 青春の記録(3)』社会思想社(現代教養文庫)、昭和五十一・四・十五 一四六〜一六七頁(抄録「乖離」「みづうみ」「Sine qua non」「哀訴」「山下町の夜」「茅蜩記」「野」「鶯」「海へ」「河」「からす」「淡採」「孤筈わけ入る山」「七月」「六月」「樹の下」「冬蝶」「草店月初冷」「くれない」「呂律」『落葉哀蟬曲』を読む人)
 - ・「『われた太陽』小野夕馥ほか編『左川ちか全詩集』森開社、昭和五十八・十一・二十七 二二三五〜二二三七頁
 - ・「山下町の夜」『日本随筆紀行』8 横浜』作品社、昭和六十一・四・二十五 八〜一〇頁
 - ・「秋夜即時」畠山義郎編『青き群像(その七)』私家版、平成八・六・一 八〜九頁
 - ・「ひとこの提示 ★Ambarvaliaの外圏をめぐる」和田博文編『コレクション・日本シユールレアリズム1 シユールレアリズムの詩と批評』本の友社、平成十二・六・十七 九頁(「解題」六二〇〜六二二頁)
- Ⅱ 誌紙編(大正十三〜昭和九年)
- 大正十三(一九二四)年
- ・「初冬を迎へて」『校友会誌』三三三号(滋賀県立彦根中学校校友会、三・一 三八〜三九頁)
 - ・「吐息する物影」『中学生』(研究社)九卷九号、九・一 一四一頁(詩「長詩」欄、署名「高祖たも津」)
- 大正十四(一九二五)年
- ・「俳句」『文章俱樂部』一〇年一号(新潮社)、一・一 一二四頁(俳句1)
 - ・「短歌」『中学生』一〇卷五号、五・一 一四九頁(短歌1「賞外佳作」欄)

・「短歌」『文章俱樂部』一〇年一〇号、十一 一七二頁(短歌1)

・「短歌」『文章俱樂部』一〇年一二号、十二・一 一七二頁(短歌1)

・「執念のつかれ」『文章俱樂部』一〇年一二号、同右 一七七頁(詩)

大正十五(一九二六)年

・「讚嘆」『中学生』一一卷二号、二・一 二〇四頁(詩「少年詩」欄、署名「高祖たも津」)

・「短歌」『文章俱樂部』一一卷二号、二・一 一八一頁(短歌1)

・「夜の雨声を聞く」『初秋一情景』『校友会誌』三五号、三・一 一六四〜一六九頁

・「丹羽先生を送り鈴木先生を迎へてこゝに私は思ふ」『校友会誌』三五号、同右 八一〜八二頁

・「第三学年旅行記」『校友会誌』三五号、同右 一〇二〜一〇五頁

・「九月の風」『校友会誌』三五号、同右 一一五〜一一六頁(詩)

・「すがしき風」『校友会誌』三五号、同右 一二九〜一三〇頁(短歌20「すがしき風」6、「秋ちかし」9、「さみしさよ」5)

・「短歌」『文章俱樂部』一一卷三号、三・一 一八〇〜一八一頁(短歌2)

・「湖の月そのほか」『文章俱樂部』一一卷三号、同右 一八六頁(詩2「湖の月」古時計)

・「早春」『わかまつ』二年四号(京都府綾部町 わかまつ発行所)、四・一 五頁(短歌2「満都廼舎主人選」署名「滋賀 高祖保」)

・「虎」『わかまつ』二年四号、同右 八、一〇頁(短歌2 署名「滋賀 高祖保」、第一首「秀逸」欄)

・「春季雜吟」『わかまつ』二年四号、同右 一八頁(俳句3「鳴球撰」署名「高祖」)

・「朧」『わかまつ』二年四号、同右 二八〜二九頁(俳句4「香鹿撰」署名「高祖」)

・「春季雜吟」『わかまつ』二年五号、五・一 一七頁(俳句2「鳴球撰」署名「高祖」)

・「青麦」『わかまつ』二年五号、同右 二四頁(俳句2「杉郎選」署名「高祖」)

・「支那人の緞子売と私」『文章俱樂部』一一卷八号、八・一 一七二頁

・「遠つ海」『わかまつ』二年八号、八・一 五頁(短歌4 署名「高祖保」)

・「樹蔭」『わかまつ』二年八号、同右 一二頁(短歌1「満都廼舎主人選」署名「高祖保」)

- ・『馬』『わかまつ』二年八号、同右 一六、一八、一九頁
(短歌5 署名「高祖保」第一、二首「秀逸」欄)
 - ・『雑吟』『わかまつ』二年八号、同右 三六頁(俳句5「鳴球選」署名「高祖」)
 - ・『夕立』『わかまつ』二年八号、同右 四五、四六頁(俳句3「香鹿選」署名「高祖」)
 - ・『幸福』『文章俱樂部』一卷九号、九・一 一六八頁
 - ・『村たちの影から』『文章俱樂部』一卷九号、同右 一八一、一八二頁(詩)
 - ・『夏草』『わかまつ』二年九号、九・一 七、八頁(短歌4「満都廼舎主人選」署名「近江 高祖保」第一首「秀逸」欄)
 - ・『羊』『わかまつ』二年九号、同右 一三、一四頁(短歌4 署名「高祖保」第一、二首「秀逸」欄)
 - ・『雑詠』『わかまつ』二年九号、同右 一九頁(短歌3 署名「高祖保」)
 - ・『雑吟』『わかまつ』二年九号、同右 三八頁(俳句6「鳴球選」署名「高祖」)
 - ・『新涼』『わかまつ』二年九号、同右 四七頁(俳句1「杉郎選」署名「高祖」)
 - ・『こもり居』『わかまつ』二年一〇号、十・一 八頁(短歌5 署名「近江 高祖保」)
 - ・『湖上月』『わかまつ』二年一〇号、同右 一三、一七頁
-
- (短歌3「満都廼舎主人選」署名「近江 高祖保」第一首「地」欄)
 - ・『猿』『わかまつ』二年一〇号、同右 二三頁(短歌2 署名「高祖保」)
 - ・『雑吟』『わかまつ』二年一〇号、同右 四六、四七頁(俳句6「鳴球選」署名「香風」)
 - ・『露』『わかまつ』二年一〇号、同右 五九頁(俳句2「香鹿選」署名「香風」)
 - ・『踊』『わかまつ』二年一〇号、同右 六八頁(俳句3「映象選」署名「香風」第二、三句に「○」)
 - ・『短歌』『文章俱樂部』一卷一〇号、十一・一 一七四頁(短歌1)
 - ・『白楊樹』『わかまつ』二年一〇号、十一・一 一五頁(短歌7 署名「近江 高祖保」)
 - ・『秋夕』『わかまつ』二年一〇号、同右 一〇頁(短歌3「満都廼舎主人選」署名「近江 高祖保」)
 - ・『鶏』『わかまつ』二年一〇号、同右 一七頁(短歌3 署名「高祖保」)
 - ・『甦らぬ朝』『赤い処女地』号未詳(静岡市 赤い処女地社)、十二・一 頁未詳(詩) 十
 - ・『夜明け』『文章俱樂部』一卷一二号、十二・一 一七〇頁
 - ・『薄の花』『わかまつ』二年一二号、十二・一 一七頁(短歌)

7 署名「高祖保」

- ・『落葉』『わかまつ』二年一二号、同右 一二頁（短歌2 署名「近江 高祖保」）
- ・「静かなる夜（私は静観する）」『湖光る』一卷一号（滋賀県坂田郡 湖光る社）、十二・五 一〜三頁
- ・『冬季雑吟』『湖光る』一卷一号、同右 一一頁（署名「香風」俳句10）
- ・「うめ草』『湖光る』一卷一号、同右 一一頁（署名「香風」短歌2）

昭和二（一九二七）年

- ・「静かなる十二月」『文章倶楽部』一二卷二号、一・一 一八七頁（詩2「静かなる十二月」「停電」）
- ・「模図』『椎の木』四号（二次 椎の木社）、一・一 八〜九頁（詩2「模図」「冬山」）
- ・「句』『椎の木』四号、同右 三七頁（署名「高祖春鹿」俳句2）
- ・「箱馬車の影』『赤い処女地』号数なし（五卷二号）、一・一 七頁（詩）
- ・「短評』『赤い処女地』号数なし（五卷二号）、同右 一八〜一九頁
- ・「青玉集』『近代風景』二卷一号、一・一 一四二頁（短歌

1)

- ・「和歌雑詠』『わかまつ』三卷一号、一・一 七〜八頁（短歌5「月の舎主人選」署名「高祖保」「平調」欄）
- ・「橋霜』『わかまつ』三卷二号、同右 一一頁（短歌3「満都遷舎主人選」署名「近江 高祖保」）
- ・「猪』『わかまつ』三卷一号、同右 一四頁（短歌1 署名「高祖保」）
- ・「新年雑詠』『わかまつ』三卷一号、同右 一八頁（短歌5 署名「高祖保」）
- ・「秋冬雑吟』『わかまつ（寸紅）』三卷一号、同右 一三頁（俳句6「鳴球選」署名「彦根 春鹿」）
- ・「嫁が君』『わかまつ（寸紅）』三卷一号、同右 二二頁（俳句3「香鹿選」署名「春鹿」）
- ・「歌留多』『わかまつ（寸紅）』三卷一号、同右 二五頁（俳句2「雅芳選」署名「春鹿」）
- ・「冬夜二つ』『椎の木』五号、二・一 七〜八頁（詩2「停電」「景観閃刀紙」〈校友会誌〉）
- ・「句』『椎の木』五号、同右 三九頁（俳句2）
- ・「冬（俺の心はガラン洞である）」『赤い処女地』五卷二号、二・五 四〜五頁（詩）
- ・「童心』『椎の木』六号、三・一 一一頁（詩2「童心」「春寒」）
- ・「句』『椎の木』六号、同右 三三三頁（俳句1）

- ・「近頃心に触つたこと」『校友会誌』三六号、三・一 一七
 一〇九頁
- ・「春霜」『校友会誌』三六号、同右 二八〇二九頁
- ・「冬夜集」『校友会誌』三六号、同右 四六〇四七頁(詩5)
- ・「落葉」『景觀閃刀紙』「失意」「野末」「落葉を呼ぶ」
 『水泡のはな』『校友会誌』三六号、同右 五三〇五四頁(短
 歌12)
- ・「夜寒朝寒」『校友会誌』三六号、同右 五七〇五八頁(俳
 句29)
- ・「第四学年修学旅行記 五月十五日(第四日)」『校友会誌』
 三六号、同右 六九〇七一頁
- ・「編輯後記」『校友会誌』三六号、同右 一〇七頁(署名「高
 祖生」)
- ・「物ご、ろある戯画」『椎の木』七号、四・一 三八頁(詩
 2 「物ご、ろある戯画」「春の水 室生犀星氏に」)
- ・「句」『椎の木』七号、同右 三五頁(俳句1)
- ・「和歌雜詠」『わかまつ』三卷四号、四・一 一〇、二三頁
 (短歌10「月の舎主人選」署名「近江 高祖保」第一首)以
 下佳調「欄、第二〇十首「平調」欄)
- ・「残雪」『わかまつ』三卷四号、同右 三四頁(短歌3「満
 都廼舎主人選」署名「彦根 高祖保」)
- ・「山」『わかまつ』三卷四号、同右 三八、四二頁(短歌
 4 署名「彦根 高祖保」第一、二首「秀逸」欄)
- ・「雜吟」『わかまつ(寸紅)』三卷四号、同右 七二頁(俳
 句2「鳴球選」署名「彦根 侏離」)
- ・「山笑ふ」『わかまつ(寸紅)』三卷四号、同右 八二頁(俳
 句1「香鹿選」署名「彦根 侏離」)
- ・「椿」『わかまつ(寸紅)』三卷四号、同右 八六頁(俳句
 1「梶助選」署名「彦根 侏離」)
- ・「静かなる孤独 —— 百田宗治氏に」『赤い処女地』五卷四号、
 四・五 一四〇一六頁(詩)
- ・「漫筆漫語」『赤い処女地』五卷四号、同右 二七頁
- ・「句」『椎の木』八号、五・一 三〇頁(俳句1)
- ・「曉夢 雨宮ふみ子さんに」『椎の木』八号、同右 三六頁(詩)
- ・「寸興」『椎の木』九号、六・一 八〇九頁(詩3「寸興」『雲』
 「晚櫻遐観」)
- ・「句」『椎の木』九号、同右 一五頁(俳句1)
- ・「六月をまねく」『椎の木』一〇号、七・一 六頁(詩3「六
 月をまねく」「無にかへるものを感じる日 —— 心からその
 一点に」「夏近く 室木豊春君に呈す」)
- ・「句」『椎の木』一〇号、同右 一五頁(俳句1)
- ・「故郷図絵集を観る」『椎の木』一〇号、同右 三六頁
- ・「句」『椎の木』一一号、八・一 一九頁(俳句2)
- ・「雁影」『椎の木』一一号、同右 二二頁(詩)
- ・「短章」『椎の木』一二号、九・一 二二頁(詩)
- ・「句」『椎の木』一二号、同右 四二頁(俳句1)

- ・「鯛を描ける画——角田幾郎氏に——」『レミアン』一輯（静岡市 レミアン社）、九・五 頁未詳 †
- ・「莊門望月」『レミアン』一輯、同右 頁未詳 †
- ・「雑筆〔発刊の言葉〕」『レミアン』一輯、同右 頁未詳 †
- ・「毀れた門」『てのひら』一〇輯（石川県鹿島郡 金沢詩話会）、十・一 二〇～二二頁（詩）
- ・「走馬看花」『てのひら』一〇輯、同右 三九～四〇頁（私信）
- ・「九月の陽だまりにて」『亜細亜詩人』二輯（静岡市 亜細亜詩人社）、十一・一 一一～一三頁
- ・「小春日和」『亜細亜詩人』二輯、同右 一四頁（詩）
- ・「寂しければ」『亜細亜詩人』二輯、同右 一四頁（詩）
- ・「訂正に就て」『亜細亜詩人』二輯、同右 二〇頁
- ・「夕ぐれ」『詩童子』一年三輯（奈良市 詩童子社）、十一・五 頁数なし（一頁 詩）
- ・「冷」『文章倶楽部』一二卷一二号、十二・一 一七六頁（詩）
- ・「秋の風鈴」『亜細亜詩人』三輯、十二・一 頁未詳（詩）
- §
- ・「寒門幽居 呈豊春大兄」『てのひら』一二輯（石川県 鹿島郡 昭和詩人会）、十二・二十五 三三～三四頁
- ・「冷か」『てのひら』一二輯、同右 五〇頁（詩）
- ・「ゆう空」『てのひら』一二輯、同右 五二頁（詩）

・「喫茶室風景 その一」『てのひら』一二輯、同右 五六～五七頁（アン）

昭和三（一九二八）年

- ・「暮れゆく一九二七年」『てのひら』一三輯、二・一 一八～一九頁（詩）
- ・「残杯冷炙 室木豊春氏の横顔一枚」『てのひら』一三輯、同右 一九～二〇頁（詩）
- ・「京都詩集を観る」『轟轟』四年二号（京都市 轟轟社）、二・五 頁未詳 †
- ・「室木豊春のひとと藝術 『雅心に映る』を中心に於て」『地上楽園』三卷三号、三・一 二二～二四頁
- ・「わが友、平川寛さん」『亜細亜詩人』輯未詳、三・一 頁未詳 §
- ・「晩秋の太陽」『亜細亜詩人』輯未詳、同右 頁未詳（詩）
- §
- ・「散文詩二篇」『校友会誌』三七号、三・一 一五三～五四頁（詩）
- ・「郊外風景」『秋の風鈴』
- ・「関東五日の旅」『校友会誌』三七号、同右 八〇～八四頁
- ・「輯余雑筆」『校友会誌』三七号、同右 一三六頁
- ・「春展く」『神の国』八卷三号（京都府綾部町 天声社）、三・八 一六五頁（詩）
- ・「詩三篇」『三田詩城』一輯（三田詩城社）、四・十五 三

- ・「四頁(詩3)「泳いでゐる」「旗」「呼びかける」
- ・「詩木を伐る」―或は『第二の閃刀紙言』『三田詩城』二輯、五・三十二〇～二二頁
- ・「鳥居本峠」「わかのみつ」四卷六号、六・一 一六頁(短歌5「満都廻舎主人選」署名「高祖保」「五歌集(雑詠)」欄)
- ・「垣卯花」「わかのみつ」四卷六号、同右 一八、二二頁(短歌2「満都廻舎主人選」署名「彦根 高祖保」第一首「以下秀調 六」欄、第二首「以下平調」欄)
- ・「雨」「わかのみつ」四卷六号、同右 二二、二五頁(短歌2 署名「彦根 高祖保」第一首「以下秀調 十二」欄、第二首「以下平調」欄)
- ・「誌友紙上互選大会応募歌」「わかのみつ」四卷六号、同右 四七頁(短歌1 無署名 四卷七号に「高祖保」)
- ・「雑吟」「わかのみつ(寸紅)」四卷六号、同右 五一頁(俳句4「吉原香鹿選」署名「近江 高祖香風」)
- ・「海苔」「わかのみつ(寸紅)」四卷六号、同右 五五頁(俳句2「よしと選」署名「彦根 香風」)
- ・「土筆」「わかのみつ(寸紅)」四卷六号、同右 五五頁(俳句1「梶助選」署名「彦根 香風」)
- ・「蟹に」「神の国」八卷六号、六・八 一二四頁(詩)
- ・「親子」「神の国」八卷六号、同右 一二四～一二五頁(詩)
- ・「瞳の中に」「神の国」八卷六号、同右 一二五頁(詩)
- ・「初夏短韻」「三田詩城」三輯、六・三十二頁(詩)
- ・「室内聴雨」「三田詩城」三輯、同右 二頁(詩)
- ・「過ぎてゆく風景」「文章倶楽部」一三卷七号、七・一 六三頁
- ・「和歌雑詠」「わかのみつ」四卷七号、七・一 二〇、三二頁(短歌5「月の家和歌磨選」署名「滋賀 高祖保」第一首「以下秀逸 十二首」欄、第二～五首「以下平調」欄)
- ・「葭切」「わかのみつ」四卷七号、同右 三七頁(短歌5「満都廻舎主人選」署名「高祖保」「五歌集(雑詠)」欄)
- ・「五月雨」「わかのみつ」四卷七号、同右 四三頁(短歌2「満都廻舎主人選」署名「彦根 高祖保」「以下平調」欄)
- ・「雷」「わかのみつ」四卷七号、同右 四五、四七頁(短歌2 署名「彦根 高祖保」第一首「秀逸」欄、第二首「以下平調」欄)
- ・「六月号互選応募歌特別評」「わかのみつ」四卷七号、同右 七六、七七頁(短歌2 署名「高祖保」)
- ・「寸紅」「わかのみつ」四卷七号、同右 八二頁(俳句2 署名「香風」)
- ・「心の言葉と表現」「わかのみつ」四卷七号、同右 八三～八六頁
- ・「雑吟」「わかのみつ」四卷七号、同右 八八頁(俳句7「吉原香鹿選」署名「彦根 高祖保」)
- ・「神よりの声」「神の国」八卷七号、七・八 一四一～一四二頁(詩)

- ・「安生館にて」『神の国』八卷九号、九・八 一三八～一三九頁（詩）
 - ・「虫に寄する」『処女地』六年一輯（彦根橋本町 処女地社）、九・十五 九頁（詩）
 - ・「都会と田舎との間」『処女地』六年一輯、同右 九頁（詩）
 - ・「余白に」『処女地』六年一輯、同右 一七頁
 - ・「詩集読後」『処女地』六年一輯、同右 一八～一九頁
 - ・「十三人集」『処女地』六年一輯、同右 二〇頁（署名「たもつ」「香風」俳句3）
 - ・「小記」『処女地』六年一輯、同右 二〇頁
 - ・「秋隣」『三田詩城』四輯、十・五 六頁（詩）
 - ・「山堂幽居」『神の国』八卷一〇号、十・八 一一九～一二〇頁（短歌9）
- 昭和四（一九二九）年
- ・「心に積む塵」『神の国』九卷一号、一・八 一〇六頁（短歌9）
 - ・「光明を希ふ詩」『門』一輯（彦根町 門発行所）、一・二 十五 一二一～一二五頁（詩）
 - ・「冬の曲」『門』一輯、同右 二六～二七頁（詩2）「冬の曲 その一」「冬の曲 その二」
 - ・「閃刀紙の言葉」『門』一輯、同右 二九～三二頁（六号 雑記）

- ・「編輯後記」『門』一輯、同右 三二頁（無署名）
- ・「三田詩城の一九二八年概算的回顧」『三田詩城』六輯、二・五 一～五頁
- ・「詩三篇」『神の国』九卷二号、二・八 一一二～一一四頁（詩3「宗教的な朝」「野梅に寄する」「アクメイストの囁言」）
- ・「初冬の林 高村光太郎氏に献ず」『門』二輯、三・二十五 一四～一九頁（詩）
- ・「冬」『門』二輯、同右 二〇～二二頁（詩）
- ・「仰瞻」『門』二輯、同右 二二頁（詩）
- ・「詩誌散見」『門』二輯、同右 二二～二三頁
- ・「詩書瞥見」『門』二輯、同右 四三～四四頁
- ・「編輯後記」『門』二輯、同右 頁数なし（四五頁 無署名）
- ・「十六人集 その十」『香蘭』七卷五号（香蘭詩社）、五・一 一二二頁（短歌5）
- ・「十五人集 その九」『香蘭』七卷六号、六・一 二〇頁（短歌5）
- ・「時評的偶感 『詩評』と『詩論』に就て」『門』三輯、六・十二 一〇～一頁
- ・「米を研ぐ」『門』三輯、同右 三〇～三三頁（詩）
- ・「美しい精神」『門』三輯、同右 三四～三五頁（詩）
- ・「雪の日・二章」『門』三輯、同右 三六頁（詩）
- ・「雑木林 野長瀬正夫に」『門』三輯、同右 三七～三九頁（詩）
- ・「滞洛小記」『門』三輯、同右 四二～四三頁

- ・「十人集」『香蘭』七卷七号、七・一 一九頁(短歌9)
- ・「ヴェルダ・モンド」『門』四輯、七・二十 五〇九頁(詩)
- ・「秋風の中で」『門』四輯、同右 二六〇二七頁(詩)
- ・「真夏の夜の夢」『門』四輯、同右 二八〇三一頁(詩)
- ・「夜の詩」『門』四輯、同右 三二〇三三頁(詩)
- ・「沿海街が暮れる風景」『門』四輯、同右 三四〇三五頁(詩)
- ・「夕立の詩」『門』四輯、同右 三六〇三八頁(詩)
- ・「后記」『門』四輯、同右 頁数なし(三九頁 無署名)
- ・「朝のうた」『泥人形』一輯(静岡市 泥人形社)、七・二
十五 頁未詳(詩) §
- ・「十五人集」『香蘭』七卷八号、八・一 二〇頁(短歌5)
- ・「十五人集」『香蘭』七卷九号、九・一 一五〇一六頁(短
歌9)
- ・「やつてくる男」『門』五輯、九・二十五 四〇五頁(詩)
- ・「朝の膳立」『門』五輯、同右 六〇七頁(詩)
- ・「寒門幽居」『門』五輯、同右 一〇〇一二頁
- ・「青白い虚無の一頁 または『荒唐無稽なる祖先の遺書』」『門』
五輯、同右 一二〇一三頁
- ・「門の落葉 去りゆく石田象夫におくる」『門』五輯、同右
一八〇一九頁(詩)
- ・「安生館にて ある宗教雑誌に掲げたわが一九二八年の心境
乃至傾向を表明する京都亀岡に於ける一篇」『門』五輯、同
右 二〇〇二二頁(詩)
- ・「等閑の箱」『門』五輯、同右 二三頁(詩)
- ・「暮れる秋」『門』五輯、同右 二四〇二五頁(詩)
- ・「アトランダム」『門』五輯、同右 二六〇三四頁
- ・「編輯後記」『門』五輯、同右 頁数なし(三七頁 無署名)
- ・「十三人集」『香蘭』七卷一〇号、十・一 一五頁(短歌7)
- ・「十七人集」『香蘭』七卷一十一号、十一・一 二〇頁(短歌
9)
- ・「美的百姓」『香蘭』七卷一十一号(附録「壺中の天地」一
号)、同右 頁未詳†
- ・「没落の季節」『門』六輯、十一・二十五 二四〇二六頁(詩)
- ・「夜行列車(石田象夫に)」『門』六輯、同右 二七〇二九
頁(詩)
- ・「歌集『三人』」『門』六輯、同右 三七頁
- ・「編輯後記」『門』六輯、同右 三八頁
- ・「十二月集 詠草」『香蘭』七卷一二号、十二・一 三〇頁
(短歌4)
- 昭和五(一九三〇)年
- ・「佐藤清氏『雲に鳥』」『園』一輯(柴田書房)、一・一 四
六〇四七頁
- ・「歌稿」『香蘭』八卷一号、一・一 四四〇四五頁(短歌6)
- ・「近江支社第一回小集記」『香蘭』八卷一号(附録「灰皿」
一三号)、同右 一頁(短歌2)

- ・「アトランダム(Ⅱ)」『門』七輯(終刊号)、二・二十五三〇～三五頁
- ・「虚室の戯」『門』七輯、同右 三六～三七頁(詩)
- ・「EPILOGUE」『門』七輯、同右 六七頁
- ・「編輯後記」『門』七輯、同右 七〇頁
- ・「闇にしづむ石」『香蘭』八卷三号、三・一 三九頁(短歌7)
- ・「下ガの『踊り児のデッサン』に題する詩」『香蘭』八卷三号、同右 四一頁(詩)
- ・「近江支社第二回小集記」『香蘭』八卷三号(附録「灰皿」一五号)、同右 二頁(署名「保」短歌1)
- ・「なげきぶし」『香蘭』八卷四号、四・一 三五頁(短歌6)
- ・「彦根支社小集(第三回)」『香蘭』八卷四号(附録「灰皿」一六号)、同右 一頁(短歌1)
- ・「盛り場」『香蘭』八卷五号、五・一 三三～三四頁(短歌9)
- ・「香蘭近江支社歌会」『香蘭』八卷五号(附録「灰皿」一七号)、同右 一頁(短歌1)
- ・「京の裏街」『香蘭』八卷六号、六・一 三六頁(短歌7)
- ・「いはゆる『藝術派』とその流行性に就て」『香蘭』八卷六号、同右 四六～四八頁
- ・「比叡山上香蘭近江支社歌会」『香蘭』八卷六号(附録「灰皿」一八号)、同右 四頁(短歌2)

- ・「比叡山と石占井」『香蘭』八卷七号、七・一 四二頁(短歌8)
- ・「あづまの旅」『香蘭』八卷七号、同右 五一頁(俳句4)
- ・「近江支社六月の歌会」『香蘭』八卷七号(附録「灰皿」一九号)、同右 三頁(短歌1)
- ・「本社」『日の会』『香蘭』八卷七号(附録「灰皿」一九号)、同右 五頁(短歌2)
- ・「察しによすぎたマダム」『香蘭』八卷八号、八・一 二六頁
- ・「山の奥区」これらを穂積忠様にささぐよきころのしるしに」『香蘭』八卷八号、同右 三三～三四頁(短歌8)
- ・「秋と食用蛙 A・KIMATA OSAM」『香蘭』八卷九号、九・一 二六頁
- ・「姫胡蝶花をみる」『香蘭』八卷九号、同右 三〇頁(短歌9)
- ・「近江支社歌会」『香蘭』八卷九号(附録「灰皿」二二号)、同右 六頁(短歌1)
- ・「白夜の蟬」『香蘭』八卷一〇号、十・一 二八頁(短歌7)
- ・「好個のテクニシアン」『香蘭』八卷一〇号、同右 三二～三七頁
- ・「近江支社夏期大歌会記」『香蘭』八卷一〇号(附録「灰皿」二二号)、同右 四頁(短歌1)
- ・「櫻馬場の秋」『香蘭』八卷一一号、十一・一 三四～三五

- 頁(短歌9)
- ・「短歌に於ける新抒情主義の展開(1)」『香蘭』八卷一―号、同右 四六―四九頁
 - ・「香蘭近江支社十月歌会」『香蘭』八卷一―号(附録「灰皿二三号」、同右 七頁(短歌1))
 - ・「その断面とGlimps」『香蘭』八卷一―号、十二・一三〇頁
 - ・「古イ詩」『香蘭』八卷一―号、同右 三二頁(詩)
 - ・「にこれる角膜」『香蘭』八卷一―号、同右 三五―三六頁(短歌9 標題「れる角」)
 - ・「歌壇時評 ★ナンセンス傾向の吟味」『香蘭』八卷一―号、同右 四二―四三頁
 - ・「近江支社九月歌会」『香蘭』八卷一―号(附録「灰皿」二四号)、同右 二頁(短歌1)
 - ・「近江支社十一月行事二つ」『香蘭』八卷一―号(附録「灰皿」二四号)、同右 三―四頁(署名「高祖」短歌1)
 - ・「消息一束」『香蘭』八卷一―号(附録「灰皿」二四号)、同右 五頁
 - ・「詩篇 作品その一」『門』八輯(臨時号)、十二・五二三―三一頁(詩2「まていのお・でまんつお」「ポプラに就て」)
 - ・「詩篇 作品その二」『門』八輯、同右 三三―三五頁(詩2「遊歩人種」「古イ詩」)
-
- ・「喜志邦三氏の詩に就て 詩集『墮天馬』を評す」『門』八輯、同右 四二―四三頁
 - ・「蛇滅門章の記 ―アトラナム(Ⅲ)―」『門』八輯、同右 四四―四八頁
 - ・「後記」『門』八輯、同右 四九頁
- 昭和六(一九三二)年
- ・「新自由律派短歌とそのGENREに就て」『香蘭』九卷一―号、一・一 四一―四二頁
 - ・「近江支社高祖保氏送別歌会」『香蘭』九卷一―号(附録「灰皿」二五号)、同右 六頁(短歌1)
 - ・「オルゴールの唄」『香蘭』九卷二―号、二・一 三八頁(短歌5)
 - ・「近江支社新春歌会 (木俣修氏を迎へて)」『香蘭』九卷三―号(附録「灰皿」二七号)、三・一 三頁(短歌1)
 - ・「近江支社三月歌会 ―野口絃批治氏渡台送別歌会―」『香蘭』九卷五―号(附録「灰皿」二九号)、五・一 五頁(短歌1)
 - ・「白体の蛾」『香蘭』九卷七―号、七・一 三八―三九頁(短歌9)
 - ・「薄暑」『香蘭』九卷八―号、八・一 三九頁(短歌7)
 - ・「MOUNTAIN ARTILLERY」『香蘭』九卷八―号、同右 五四―五五頁(詩)
 - ・「海のエピグラム」『香蘭』九卷一〇―号、十・一 三八―三

九頁(短歌6)

・「秋のフラグメムト」『香蘭』九卷二一号、十二・一四二
〜四三頁(短歌5)

・「山の古い手帖から」『香蘭』九卷二二号、十二・一四七
頁(短歌7)

昭和七(一九三二)年

・「軍隊手帖」三次『椎の木』二冊(椎の木社)、一・一
五〜一六頁(詩)

・「過ぎゆくもの」『香蘭』一〇卷一号、一・一五六〜五七
頁(短歌13)

・「超自然歌」『柊花』卷号未詳、一・日、頁未詳(短歌8)

§

・「海盤車」『椎の木』二冊、二・一 一九頁(詩3「海盤車」

「自家中毒」[浄化])

・「噴きあげの絵」『香蘭』一〇卷二号、二・一 三五〜三六
頁(短歌5)

・「超自然歌」『窓』四卷一号(彦根町 窓発行所)、二・一
一頁(短歌4)

・「君のコステユウム 榊谷啓市君のおもてむきの短歌衣裳。

——」『窓』四卷一号、同右 一八〜一九頁

・「ELEGY」『椎の木』三冊、三・一 一二頁(詩2「ELEGY」
[Lethe])

・「星・ぱすとらある」『香蘭』一〇卷三号、三・一 五一頁
(短歌6)

・「京都・香蘭・橄欖・合同歌会」『香蘭』一〇卷三号、同右
一 一六頁(短歌1)

・「心の祝祭日」『神の国』一二卷三号(亀岡町 天声社)、三・
十 七六〜七九頁(詩)

・「昇華」『椎の木』四冊、四・一 二五頁(詩2「昇華」[菊])

・「浅みどり」『香蘭』一〇卷四号、四・一 三七頁(短歌6)

・「蕨俊之介氏へ」『香蘭』一〇卷四号、同右 一〇四頁

・「星のAria ——ひとつの『えちうど』として」『窓』四卷二
号、四・一 頁未詳(短歌13) §

・「岡田俊二に関する覚え書」『窓』四卷二号、同右 頁未詳

§

・「点綴」『短歌詩人』一卷三号(岡山市 ふつか会)、四・

二十二 頁数なし(二四頁 短歌1)

・「目黒にて」『香蘭』一〇卷五号、五・一 三三頁(短歌1)

・「天使と機械」『神の国』一二卷五号、五・十 六六〜六七
頁(詩)

・「捨石」『神の国』一二卷五号、同右 六七頁(詩)

・「短歌に於ける『若さ』の位置」『窓』四卷三号、六・一
三〜五頁

・「門 一九二九年の春から一九三〇年の冬の終りまで」『椎の
木』九冊、九・一 三四〜三五頁(詩)

- ・「心霊学」『椎の木』九冊、同右 三五頁(詩)
 - ・「MOUNTAIN-ARTILLERY」『ポエチカ』一二卷三号(ポエチカ社)、九・一 六頁(詩)
 - ・「夜想庵に寄せて 潔癖な御性格を」『ポエチカ』一二卷四号、十・一 一三頁
 - ・「掌とゆび」『窓』四卷五号、十・一 一二〜一三頁
 - ・「理論の流れ」『短歌詩人』一卷五号(岡山市 短歌詩人社)、十・二十 一〇〜一二頁
 - ・「共和国 五十章の中」『椎の木』一一冊、十一・一 三〇〜三二頁(詩)
 - ・「しばらくは払暁戦」『椎の木』一一冊、同右 三二頁(詩)
 - ・「聖地巡礼 椎の木二年の作品概観」『椎の木』一二冊、十二・一 六六〜六九頁
- 昭和八(一九三三)年
- ・「机上の新刊二書」『椎の木』二年二冊、二・一 四八頁
 - ・「フェノメノンの神経」『椎の木』二年二冊、同右 六七〜六九頁
 - ・「蠹魚抄」『ポエチカ』一三卷二号、二・一 一一頁(短歌4)
 - ・「蠹魚の歌」『窓』五卷一号、二・五 三頁(短歌5)
 - ・「湖のアルバトロス 湖畔随筆集。第十章。」『椎の木』二年三冊、三・一 三六〜三七頁(詩)
- ・「蘆の芽」『神の国』一三卷三号、三・一 九〇〜九二頁(詩)
 - ・「安西冬衛と瀧口武士」『椎の木』二年四冊、四・一 四二〜四四頁
 - ・「思索のフラグマント」『神の国』一三卷四号、四・一 六四〜六七頁
 - ・「十字の萃」『窓』五卷二号、四・五 三頁(短歌4)
 - ・「野村泰三と粗野」『窓』五卷二号、同右 二〇頁
 - ・「共和国風俗」『尺牘』四冊(椎の木社)、四・十八 一六頁(詩)
 - ・「硝子建築」『椎の木』二年五冊、五・一 三〇〜三二頁(詩)
 - ・「星のAria ——ひとつの『えちうど』として」『短歌詩人』二卷五号(岡山市 短歌詩人社)、五・一 二〜三頁(短歌13)
 - ・「短歌の背後から」『短歌詩人』二卷五号、同右 七〜八頁
 - ・「聖旗の頌詩」『神の国』一三卷五号、五・一 七〇〜七一頁(詩)
 - ・「短歌形式について (管見)」『短歌詩人』二卷六号、六・一 七〜八頁
 - ・「春の序曲」『窓』五卷三号、六・五 頁未詳(短歌5) §
 - ・「(1と2)の或る基礎づけ」『椎の木』二年七冊、七・一 三〇〜三一頁
 - ・「神秘の片鱗」『椎の木』二年七冊、同右 五六〜五七頁(詩)
 - ・「公孫樹下の祈り」『神の国』一三卷七号、七・一 六二〜

六四頁(詩)

・「希臘十字」『文藝汎論』三卷八号(文藝汎論社)、八・一

三六〇三七頁(詩)

・「(園)の散策 瀧口武士氏詩集から」『椎の木』二年八冊、

八・一 六〇〇六二頁

・「青い聖晚餐式! 歌集『芦の芽に』就て」『短歌詩人』二
卷八号、八・一 一八〇一九頁

・「書齋・旅におちる記」『窓』五卷四号、八・五 一二〇一
三頁

・「青い花を翳す……………」『椎の木』二年九冊、九・一 五
五〇五七七頁

・「希臘十字」『椎の木』二年一〇冊、十・一 八〇九頁(詩)

・「北風神の歌をさくまで」『神の国』一三卷一〇号、十・一

六六〇六七頁(詩)

・「西倉保太郎著 静かなる窓」『不死鳥』二八号(旭川市
裸文藝社)、十・一 三二〇三二頁(書信)

・「山上のCorrespondence」『尺牘』六冊、十・五 二〇〇

二二頁(詩)

・「禽二つ配する五分間写生」『文藝汎論』三卷一一号、十一・

一 四〇〇四二頁(詩)

・「希臘十字」と装幀」『レッツェンゾ』号数なし(紀伊国屋
書店レッツェンゾ編輯部)、十一・一 四二二〇四三頁

・「三十三年終曲 椎の木第二年の回顧」『椎の木』二年一二冊、

十二・一 五六〇五九頁

・「ひとつの提示 ★Ambarvallaの外圍をめぐって」『日本詩

壇』一卷七号(日本書房)、十二・一 七九頁

・「天から墜ちる虹」『神の国』一三卷二二号、十二・一 五

八〇六三頁

・「うつそみごと(一家言)」『窓』五卷六号、十二・二十二
三〇四頁

昭和九(一九三四年)

・「乖離」『苑』一冊(季刊 苑発行所)、一・一 四六〇四
七頁(詩)

・「十二月三十一日」『文藝汎論』四卷一号、一・一 五六〇
五七七頁(詩)

・「天使園の薔薇」『神の国』一四卷一号、一・一 六八〇六
九頁(詩)

・「蘆の芽」『投影』一号(旭川市 西倉保太郎)、一・三十
一二〇一五頁(詩)

・「岩佐東一郎氏の『神話』」『椎の木』三年二冊、二・一
四二頁

・「後記」『椎の木』三年二冊、同右 七二頁

・「流行に関する献立十品 (REFRESHMENT)」『短歌詩人』
三卷二号、二・一 頁数なし(一四〇一五頁)

・「幽遠 二篇」『文章法』一冊(『文章法』発行所)、二・五

- 一〇〇～一一頁(詩)
- ・「消息」『わか芽』二卷二号(大津市 わか芽社)、二・二五 二六～二七頁(書信)
 - ・[Eschatology の一部] 一次『月曜』(滋賀県蒲生郡 月曜発行所) 九号、二・二十六 頁数なし(一～三頁 詩)
 - ・「湖のCahierから一章」『月曜』九号、同右 頁数なし(三～四頁 詩)
 - ・[A Dragon] 『窓』六卷一号、二・二十八 三頁(詩)
 - ・「トルンと乳 二月版詩篇抄評」『椎の木』三年三冊、三・一五五頁
 - ・「後記」『椎の木』三年三冊、同右 六九頁
 - ・[A Dragon] 『日本詩壇』二卷二号、三・一 三二～三三頁(詩)〈『窓』〉
 - ・「青い花」『日本詩壇』二卷二号、同右 三三頁(詩)
 - ・「消息」『わか芽』二卷三号、三・十五 六～七頁(書信)
 - ・「おお わが手なる 壺胡録」『苑』二冊、四・一 五〇～五一頁(詩)
 - ・「おお わが手なる 壺胡録」『文藝汎論』四卷四号、四・一 六〇～六一頁(詩)
 - ・「ひこね拾遺 フラゲマン」『わか芽』二卷四号、四・十五 二三～二四頁(詩)
 - ・「擬態化した『晚餐』」『椎の木』三年五冊、五・一 二九頁(詩)
 - ・「天恩郷遊草 十四章の内」『神の国』一四卷五号、五・一 六〇～六三頁(詩6 「★公孫樹の下」「★朝祈晚禱」「★Verda Cambro」「★花園喪失」「★春の星座」「★保津川 遐観」)
 - ・「消息」『わか芽』二卷五号、五・十五 三三頁(書信)
 - ・「パンと葡萄酒」『窓』六卷二号、五・日、頁未詳&
 - ・[Terra=cotta (田園調書)] 『椎の木』三年六冊、六・一 四～五頁(詩)
 - ・「後記」『椎の木』三年六冊、同右 六一頁(無署名、目次に「高祖」と記名)
 - ・「垂氷」『苑』三冊、七・一 七八～七九頁(詩4 「俄魯斯亞好みの雪」「垂氷」「古譚」「まなこ」)
 - ・「そのグリムプス」『椎の木』三年七冊、七・一 三八頁
 - ・「岡崎清一郎氏の「火宅」」『椎の木』三年七冊、同右 三八頁
 - ・「後記」『椎の木』三年七冊、同右 六〇頁
 - ・「軽井沢にて」『人類愛善新聞』二六四号(京都府亀岡町天声社)、七・二十三 四面(詩)
 - ・「滯標 (REFRESHMENT)」『椎の木』三年八冊、八・一 四二～四三頁
 - ・「愛書推薦」『台湾日日新聞』号未詳、八・十六 面未詳(ア ン) &
 - ・「メロスの瓶壺 (山岳に関するものばかりを擬つて)」『文藝

汎論』四卷九号、九・一 三二頁(詩)

・「四行詩三篇」『人類愛善新聞』二七〇号、九・二十三 四
面(詩)

・「色彩樂 二章」『椎の木』三年一〇冊、十・一 一一頁(詩)

・「ボオドレエル研究」と『仮説の春』『椎の木』三年一〇
冊、同右 五一〜五二頁

・「秋^{xy}び Quatrain」『神の国』一四卷一〇号、十・一 四
八〜五〇頁(詩)

・「旅」『わか芽』二卷一〇号、十・十五 九頁(俳句1)

・「狩獵日記の塵」『椎の木』三年一冊、十一・一 四頁(詩)

・「促織鳴東壁」『椎の木』三年一冊、同右 四一〜四三頁
・「樹下石上」『神の国』一四卷一〇号、十一・一 六〇〜六
三頁

・「小春帖」『わか芽』二卷一〇号、十一・二十 一六頁(俳
句2)

・「^{xy}にひやくの monologueが」『椎の木』三年一冊、十
二・一 一五頁(詩)

・「西山文雄遺稿集」『椎の木』三年一冊、同右 四一〜
四二頁

・「支那古詩二篇」『神の国』一三卷三号、十二・一 六六〜
六七頁(詩2 「隠者と猿のこしかけ」「河べりで乾魚が泣
いた^{はな}」)

・「著者への私信」『不死鳥』三七号、十二・十五 四二〜四

三頁(書信)

追記 これらの文献のうち、未見(十)、現物未確認(8)、
また未記載の資料をお持ちの方からのご協力を希望した
い。ご連絡をお待ち致しております。

平成十九年十月二十五日 原稿受理

大阪産業大学 教養部非常勤講師